

講座のアピールポイント

当講座では救命救急センター病棟と集中治療室を管理しており、急病や大怪我をされた方々への診療や手術前後の全身管理などを行っています。また栃木県ドクターヘリ事業として、栃木県及び茨城・群馬県の一部をカバーしており、現場からの救急医療を提供しています。コロナ禍においては、県内3ヶ所の重点医療機関のひとつとして、重症患者の集中治療管理にも積極的に対応してきました。スタッフは救急科専門医、集中治療専門医、日本航空医療学会認定指導者ほか、各種専門資格を有した医師で構成されており、看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ療法士・放射線技師などと連携しながらチーム医療で安全・安心な医療を提供し続けています。

一方、病院前救護体制にも積極的に関わっており、救急隊・救急救命士の医学的知識や技術向上のための研修会や演習、活動後の検証会開催などを行っています。また多数傷病者発生を想定したドクターヘリとの連携訓練なども県内12消防本部と適宜開催しています。

当院は地域災害拠点病院及びDMAT指定医療機関でもあります。DMATとはDisaster Medical Assistance Teamの略語であり、災害派遣医療チームのことです。東日本大震災や熊本地震、令和元年の台風15号豪雨災害（千葉県）、Covid-19パンデミックにおける武漢帰国者対応とクルーズ船乗組員対応などに派遣実績があります。さらには令和元年東日本台風（台風19号）など、県内での豪雨災害や極地災害においても災害医療対応を行っています。また年1回政府主導で行う「大規模地震時医療活動訓練」やDMAT関東ブロック訓練などにも積極的に参加して、知識・技術のブラッシュアップを図っています。



講座研究紹介

2010年1月のドクターヘリ運航開始からデータベースを構築して症例登録をしています。それをもとに論文を作成し、世界に向けて発信しています。ドクターヘリに関わった事案全体の特徴を、さまざまな切り口から評価して紹介したものになります。また、脳卒中や頭部外傷、けいれん発作など脳疾患・外傷に的を絞った論文発表も行っています。今後もドクターヘリデータベースを用いた研究を継続していきます。そのほか、新規性の高い感染症の報告など症例報告論文なども適宜作成、発表しています。

大規模なデータベース登録にも参加しており、外傷患者を登録する外傷レジストリ、集中治療を受ける患者さんを登録するJapanese Intensive care Patient Database(JIPAD)、ドクターヘリ全国症例登録システムへの登録などを進めているところです。さらに多施設共同研究として、心肺停止となった患者さんに対する体温管理療法と酸素治療をテーマとしたふたつの研究にも参加しています。

上記以外にも救急・集中治療領域を中心に臨床研究を続けています。これら研究の成果を世に発表していくことで、救急・集中治療医学のさらなる発展に寄与し、以って県民の皆さまが安心して医療を受けられる環境の構築の一助につながるよう努力してまいります。

業績などの詳細は当講座のホームページで公開しております。

[獨協医科大学病院 救命救急センター・集中治療室 \(dokyomed.ac.jp\)](http://dokyomed.ac.jp)

